

特別管理産業廃棄物処理計画書

2023年6月/2日

埼玉県知事 殿



提出者

住 所 埼玉県狭山市広瀬台2-5-1

氏 名 株式会社DNPイメージングコム

狭山工場長 菊地 和彦

電話番号 04-2952-9761

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社DNPイメージングコム 狭山工場
事業場の所在地	埼玉県狭山市広瀬台2-5-1
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	その他の製造業 [32]
② 事業の規模	製造品出荷額 108億円/年 (2022年度実績)
③ 従業員数	241名 (2023年5月21日現在)
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ
	排出量	285.34 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ①有価物化（排出箇所細分化により有価物化の促進） ②原料を有機溶剤系より水性へ変更（脱溶剤化活動） ③製造スタートロスの低減（使用量削減） ④各部署による溶剤使用量削減活動（残液削減活動） ⑤廃液濃縮装置導入による排出量削減		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ
	排出量	271.0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ①有価物化（排出箇所細分化により有価物化の促進） ②原料を有機溶剤系より水性へ変更（脱溶剤化活動） ③製造スタートロスの低減（使用量削減） ④各部署による溶剤使用量削減活動（残液削減活動） ⑤廃液濃縮装置運用による排出量削減		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の種類：引火性廃油 分別に関する取組：発生工程ごとにドラム缶で集積し、溶剤含有量から有価物と廃棄物とに分類し、排出本数をチェックしている。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取組を継続する

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ
	全処理委託量	285.34 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	17.28 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	268.06 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ①有価物化（排出箇所細分化により有価物化の促進） ②原料を有機溶剤系より水性へ変更（脱溶剤化活動） ③製造スタートロス低減（使用量削減） ④各部署による溶剤使用量削減活動（残液削減活動） ⑤製造プロセスから発生する不要物の詳細な調査や分別方法の見直しによって、有価物化の可能性を検討し適切な処置を実行する。		

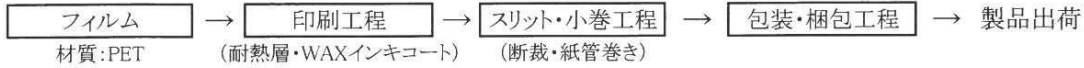
②計画	<b>【目標】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	強アルカリ
	全処理委託量	271.0 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	16.0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	255.0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)			
①有価物化（排出箇所細分化により有価物化の促進） ②原料を有機溶剤系より水性へ変更（脱溶剤化活動） ③製造スタートロスの低減（使用量削減） ④各部署による溶剤使用量削減活動（残液削減活動） ⑤製造プロセスから発生する不要物の詳細な調査や分別方法の見直しによって、有価物化の可能性を検討し適切な処置を実行する。 ⑥廃液濃縮装置運用による排出量削減			
電子情報処理組織の使用に関する事項	<b>【前年度（2022年度）実績】</b>		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	285.34 t	
(今後実施する予定の取組等) マニフェスト発行に際しては、引き続き電子マニフェストシステムを利用する。			
※事務処理欄			

<別紙1>

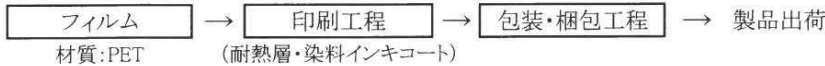
特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程

製造工程

1. 熔融型熱転写記録材料



2. 昇華型熱転写記録材料



廃棄物処理工程



<別紙2>  
管理体制図

<各担当の役割>

